

てれれ再開 その前に

十一月二十三日（土・祝）

に「メディアフェス2024」関西」が立命館大学大阪いばらきキャンパスで開催されました。

パンフレットを見ると第十九回目の開催とのこと。「市民メディア全国交流集会」と書かれており、さまざまな展示や、メディアに関する研究や取り組みをされている方々が登壇してセッションをする時間などが設けられていました。

ここへ『映像発信てれれ』の代表である下之坊修子さんも登壇されるとのことで参加をしてみました。そしてなんと下之坊さんから「寝屋川はてれれをするにあたって面白い取り組みをしているからそれをぜひ話してほしい」とお声をかけていただき、たすけあいの会からも中務と富田が登壇することになりました。当日の参加方法は事前にオンラインでチケットを購入し、

アプリ管理となります。最近ではアーティストのライブなどで主流になってきているのがはがうまくできていくのかは受付を通るまでドキドキでした。受付を通るとすぐに展示が並びます。約十の団体が掲示や映像を流して情報を発信されていました。

セッション会場は二部屋あり、時間を区切り八セッションが予定をされていました。目的のセッションは「カフェ放送てれれ*今だからこそ」というタイトルで十三時からスタートでした。

九〇分のうちのはじめの一時間は最新のてれれを参加者全員で鑑賞。鑑賞後、下之坊

さんのMCで登壇者登場です。もうお一方もいらっしやり、四名でのセッションでした。それぞれの団体でてれれをはじめた経緯、続けてきた理由、再開にあたっての想い、そして今のメディア（大きい言葉ですが…）の在り方などが語られました。

中務からは「自分が感じるてれれのおもしろさ」という話が出ました。テレビや映画、サブスクは自分が選んで観る、でもてれれは選ばない、選ばないから自分が想像に及ばない世界が広がるんだと。さらには一緒にてれれを観ている人たちと映像について話ができる、そこにもいろんな発見がある、という魅力が語られました。

富田からは、今の社会が求めている映像とは、という視点から、てれれはそれらとは時間、空間が全く違うという話が出ました。インパクト、そしてタイパ（タイムパフォーマンス）を考え、いかに効率的に映像を作るか、観るか



てれれは「知らないことを知る」「余白を楽しむ」ために時間をつかう、そしてその空間を誰かと共有する、てれれにはそんな面白さが詰まっていると語られました。

「今だからこそ」てれれを再開したい、という下之坊さんに刺激をもらい、たすけあいの会でも十一月三〇日にてれれを再開します。勝負するでもなく、評価するでもなく、ただ目の前にあるてれれの映像を楽しむ時間を過ごしたいなと思います。

自分が感じる「おもしろい」「心地いい」を大切に、メディアと上手に付き合っていくことを考えるきっかけになった秋のひと時でした。

大村静香

